

ARC Advisory Group レポート

このコーナーでは米国の大手調査会社、ARCアドバイザリーグループの市場調査報告書を紹介する。今回は輸送管理システム(TMS)市場の今後五年間の動向に関するレポートを取り上げる。

TMS市場の成長率は前年比7%増 低価格モデルで導入するユーザーが増加

TMS(輸送管理システム)市場の二〇〇二年の成長率は約七%増に達した。マーケット規模は八億六〇〇万ドル。ARCでは同市場が今後五年間に年率十一・六%のペースで成長を続け、二〇〇七年にはマーケットの規模が一四億八九〇〇万ドルを超えると予測している。

確かに同市場の未来は明るい。しかし、システムを提供するベンダーにとって今後の道のりは決して平坦ではない。「成功を収めるためには従来の輸送管理の機能に新たな機能を加える、クライアントに対して導入コストに見合った成果が上がるシステムを提供する、経営基盤を安定させる、グローバル対応能力を持つ」の四つの条件を満たさなければならぬ」と、「輸送管理システムの世界市場動向レポート」の著者で、ARCのロジスティクスエクゼクティブ協議会(LEEC)でディレクターを務めるAdrian Gonzalez氏は力説する。

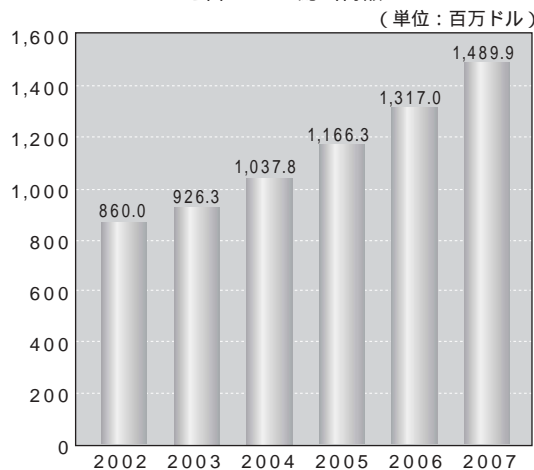
単機能で、しかも他のシステムと連動できな

いTMSを提供するにとどまっているベンダーに将来性はない。ユーザーはオーダー管理、オーダーフィルメント、パフォーマンスマネジメントといった機能を有した総合的なソリューションを求めているからだ。「広範な領域をカバーするシステムを提供しているERPベンダーやSCMソフトベンダー、3PL業者などがTMS市場に食指を動かしており、既存のTMSベンダーとの競争はより一層激しくなるだろう」とGonzalezディレクターは見ている。

現在、ユーザーの多くは主にTMSの「出荷オペレーション管理」機能を利用している。しかし最近ではこれに「入荷オペレーション管理」機能を加えるユーザーが増えつつある。二〇〇二年に販売されたTMSのうち、実に約二〇%は「入荷オペレーション管理」機能に関する商品だった。

とりわけ「入荷オペレーション管理」機能の導入に積極的なのはウォールマートをライバル視

ライセンス、サービス、ホスト契約費を含むTMS総出荷額



© ARC Advisory Group

する小売業者たちだ。「小売業の場合、入荷までのプロセスの管理を強化すれば、より大きなコスト削減効果が期待できるからだ」とGonzalezディレクターは分析する。

TMSベンダーは数年前からホスト型ソリューションと、リース契約のような繰り返し契約費を徴収できる価格モデルを提案し始めた。ホスト型ソリューションを提供するという戦略は他のソフト市場では失敗しているが、TMS市場では順調に浸透している。

二〇〇一年、ホスト型ソリューションによる収入は全体の二〇%を占めた。さらに二〇〇二年には二二%まで拡大した。「多くの企業はIT投資を検討する際に、システム導入でどれだけのコスト削減効果があるのかを注視している。ホスト型ソリューションは低コストでの導入が可能。それが一番の魅力だ」とGonzalezディレクターは説明する。